

第Ⅱ章 合理的配慮の提供事例

1 学習に関すること

1 授業中に一方的な発言を繰り返す A さん(小学校)

Aさんは、授業中、教師の発問中や友達の発言中に割り込んで話し始めたり、指名されると延々と話し続けたりしてしまいます。教師が声をかけると、しばらくの間は友達の発言を聞いていることができますが、我慢ができずに勝手な発言を繰り返してしまいます。授業中以外でも友達の話に割り込み、一方的な発言を繰り返してしまうためトラブルになることがあります。どう配慮していけばよいのでしょうか。

どうしてそうなるの？(考えられること)

- ◎今求められているものは何かの理解や、適切な状況判断が難しいため
- ◎「発言したい、発表したい」という衝動をコントロールすることが難しいため
- ◎話している間に別の話題が頭に浮かんでしまい、話の内容がそれてしまうため
- ◎学習内容が理解できずに飽きてしまうため

合理的配慮・具体的な支援(例)

1 学級全体で統一したルールを決めて掲示する <①-2-1>

- 「発言の仕方、聞き方の約束」を、教室の見やすい場所に掲示し、常に意識できるようにする（ルールが守れないときは、掲示を指し示したりみんなで読み合ったりして確認する）。

話し方のあいいうえお

あいてを見て
いっしょうけんめい
うんと口をあけて
えがおで
おわりまで話す

聞き方のあいいうえお

あいてを見て
いっしょうけんめい
うなずきながら
えがおで
おわりまで聞く

教室の目に付く場所に掲示することで、話し方や聞き方の約束が意識できるようになりました。

2 担任が声をかけやすい座席にする <①-2-1> <①-2-3>

- 座席はなるべく前の方の中央寄りにし、注意を喚起したり、発言を制止したりしやすいようにする（発言をさえぎられたという気持ちを和らげるため、発言する順番を伝えて発言の機会を作る）。



座席を前にしました。

担任がさりげなく声をかけることができるので、授業も中断することなくスムーズに進められます。また、トラブルも減りました。

3 発言は順番に行えるよう意図的に設定し、質問内容は板書する <①-1-2>

- 授業展開において意図的に発表する順番を決め、発表する順番も座席の順番など分かりやすくし、自分の順番を意識できるようにする。
- 課題や質問内容などを板書し、発言内容がそれないようにする。



目立たないと先生に指名してもらえないとの思いから、とにかく目立つように手を挙げていましたが、順番に発表するように変更したことにより、集中して聞くことができるようになるとともに、落ち着いて発言できるようになりました。

4 休み時間や放課後などに話を聞く場を設定する <①-2-3>

- 個別にじっくりと話を聞く場面や時間を設定し、話を聞きながらも話をするときのルールを伝えたり、相手の気持ちを理解したりする練習も行う。

2 文字を書くことが苦手なBさん（小学校・低学年）

Bさんは、文字を書くことが苦手です。鏡文字や似ている文字の間違いがあります。漢字の細かい部分で書き間違いがあったり、思い出せなかったりします。

また、繰り返し文字を書く宿題では覚えられず、宿題もやらなくなってきました。どう配慮していけばよいでしょうか。

校→妹
話→話

どうしてそうなるの？（考えられること）

- ◎形を正確に捉えることが難しいため（形の違いや傾き、方向など）
- ◎形を正確に記憶することが難しいため
- ◎目と手を協応させることが難しく、不器用さがあるため

1 文字の形や構成を捉えることができるようにする <①-1-1>

- 書き方の注意するポイントを声に出しながら、なぞって覚える。
- パーツに分けて言語化して覚える。
- 部首やパーツの構成を捉えたり、細部に注目したりできるようにする。

<ポイントを声に出してなぞる>



「^{さんずい}シ」は上から下へてんてんしゅっ、「し」と似てるね

「本」は、よこ、たて、ななめ、はらい、よこ

<パーツ（色）に分けて言語化>



こめ、おんな、の、いち、ばってん

きへん、じゅう、また

漢字をパーツに分けて言語化することで、構成を捉えて書ける漢字が増えました。また、宿題は、文字を繰り返し書くのではなく、部首カードやいろいろなプリント（例：「漢字足し算」「間違い探し」等）を用意することで、自分で取り組めるようになりました。

<部首カード>



<パズル>



<漢字足し算>

日 + 生 = 星

日 + 土 + 寸 = 時

児童の学びやすい方法で学べるようにし、宿題も工夫します。

<違い・間違い探し>

読読

右石

合理的配慮・具体的な支援(例)

2 意味付けや補助的手段の活用で、記憶したり思い出したりする手助けをする

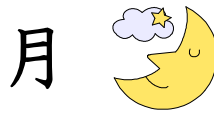
〈①-1-2〉 〈①-2-3〉

- 意味付け（例：「部首の意味を知る」「絵と対応させる」「成り立ちを知る」）をして、文字を記憶することができるようにする。
- 補助的手段で文字を思い出し、安心して学習に取り組めるようにする。

〈部首の意味を知る〉

さんずい（氵）は、「水」に関する漢字だね。
「海、湖、泳、池」

〈絵で意味づけ〉



必要に応じて通級指導教室等で個別に学習することも考えます。
通常の学級での学習に取り入れることもできます。

〈50音表を配布〉



〈電子辞書〉



50音表や電子辞書を手元に置いて、いつでも調べられるようにしたので、それを見ながら文字がスムーズに書けるようになりました。

3 使いやすい道具等を用意したり、書く量や時間を調節したりする

〈①-2-1〉 〈①-1-1〉 〈①-2-3〉

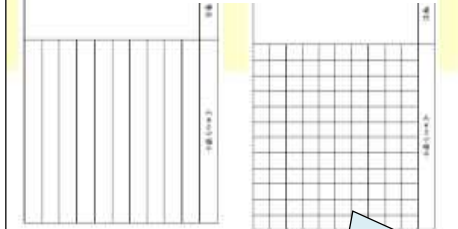
- 使いやすい鉛筆や消しゴム、書きやすいマス目や罫線を用意する。
- ICT機器を使って学習し、楽しみながら、できた実感や達成感がもてるようにする。
- 書く量を減らして負担を軽減したり、書く時間を十分確保したりする。

〈三角鉛筆〉



一辺が広くて持ちやすくしっかり握れる

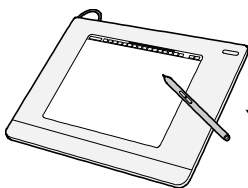
〈太い罫線、大きなマス目〉



〈補助線〉



〈タブレット端末、アプリケーションの活用〉



書く量を減らしたり、楽しみながら学べるようにしたりして、苦手意識を少なくすることも大切です。

枠や補助線があって、字のバランスがとりやすくなりました。
また、書きやすいプリントが選べるので、安心して学習に取り組めるようになりました。

3 文章を書くことが苦手なCさん（中学校）

Cさんは、体験したことや思ったことなどを文章に書くことが苦手です。また授業中、板書を写すのに時間がかかります。最近は文章を書こうとしなくなり、学習内容を理解することも難しくなってきました。どう配慮していけばよいでしょうか。

どうしてそうなるの？（考えられること）

- ◎書くことを決め、順序立てて文章を書くことが難しいため
- ◎板書と手元を対応させながら書くことが難しいため
- ◎文や単語を記憶して、書くことが難しいため

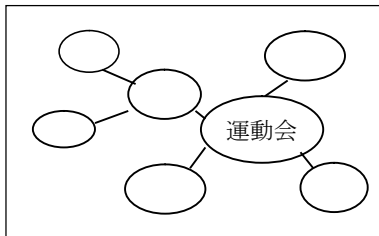
1 書く内容を整理して、文章を書く <①-1-1> <①-2-1>

- 書くことをイメージしたり項目に分けたりしながら、書く内容を考えて整理できるようにワークシートを工夫する。
- 文字入力に関する代替手段を活用し、書く負担を減らす。（パソコン等）

合理的配慮・具体的な支援(例)

<ウェビング図>

キーワードから、
イメージを広げる



<作文メモ>

「いつ」「どこで」など
書く順番を決める

いつ	どこで	だれが	なにを	どうした
□番	□番	□番	□番	□番

<付箋メモ>

メモを時間
軸に並べる

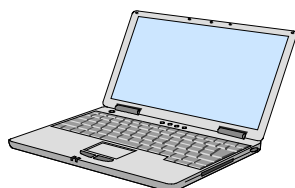
牛を見ました	家族みんなで	牧場に行った
--------	--------	--------

<接続詞を考えながら文章をつなぐ>

おわり	なか	はじめ

【接続詞】
そして、だから、
また、さらに
しかし、でも、

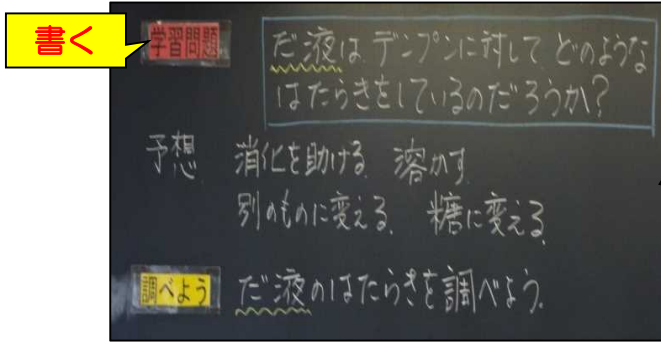
内容や順番を決めた後、「はじめ」「なか」「おわり」に沿って文章を書くことで、体験したことを文に書き表わすことができるようになってきました。



文章を書くことに負担がある場合は、パソコン等を使って文字を入力します。

2 書きやすくなる方法を工夫する <①-1-1><①-2-1><①-1-2>

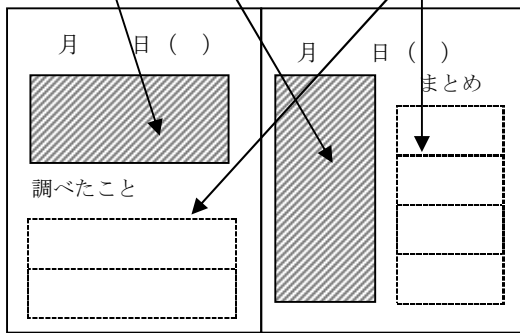
- 書きやすくなるよう板書を工夫したり、書き写す部分を減らしたりする。
- 補助プリントやワークシートを用意し、書く量を減らす。
- 板書する内容を手元に置いて書いたり、デジカメで撮ったりする。



生徒と相談して書き写す部分を減らします。写すところを「チョークで囲む」「ポインターで示す」とわかりやすくなります。

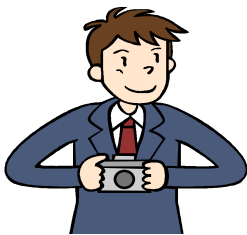
また、「板書の量は少なめにする」「行間をあける」「言葉や文章は短く書く」などの配慮は、他の生徒も板書が写しやすくなります。

ノートにワークシートを貼る 調べて書く



ワークシートを使用することで書く量が減り、ノートに貼ると、学習内容が整理しやすくなります。

<板書内容をデジカメで撮る>



<板書内容を手元に置く>



事前にCさんに板書内容を渡し、手元に置いて書くことができたようにしたことで、スムーズに文章を書くことができるようになり、学習に集中できるようになりました。

3 書いてある内容の理解を促してから書くようにする <①-2-1>

- 教師があらかじめ板書を読み、内容を理解させてから書かせるようにする。
- 単語をまとまりで捉えられるように印や振り仮名をつけるようにする。

(理科) ぼうじしゃく や でんじしゃく の近くに
 方位磁針を置くと、方位磁針はどのよう
 になったか。

教師が板書を音読してから書かせるようにすると、他の生徒も板書を写しやすくなります。

黒板や教科書等の単語に印や振り仮名をつけることで、単語をまとまりで捉えやすくなります。